

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	マーケティング実践Ⅱ		(NGB24B)
講義名 (コード)	マーケティング実践ⅡA		(NGB24BA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	身近な業界や企業からマーケティングを考えてみる。 そしてマーケティングを実践的に使えるようにする
全体の内容と概要	①マーケティング的思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げる ②理解を深めるためにケーススタディやワークショップの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期の授業内容を理解できる	後期の授業テーマと流れの解説
2	ニューマーケティングポイントを理解できる	マーケティングはモノ消費とコト消費へ。そして…
3	アフター・コロナのマーケティングを理解できる	今後のマーケティングはどのように変わるか
4	ローカルマーケティングを理解できる	商店街支援事例を通して、地域マーケティングを考察する
5	デジタルマーケティングのトレンドを理解できる	新しいマーケティングを体感する
6	マーケティング戦略を理解できる	差別化戦略、価格戦略を業種別に考察する
7	学んだことをアウトプットできる	ワークショップ
8	同上	興味があるビジネスの情報収集を実施
9	同上	商品開発を考察する
10	同上	SDGsの取り組みを考察する
11	同上	プロモーション戦略を立案
12	同上	マーケティング戦略をまとめる
13	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
14	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	経営戦略Ⅱ		(NGB24D)
講義名 (コード)	経営戦略ⅡA		(NGB24DA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、(株)経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	人と組織を軸ににして経営戦略を考える
全体の内容と概要	①企業を牽引するリーダーの資質、スキルを学ぶ ②これらの組織の形とは
授業時間外の学修	日頃から企業のリーダーがどんな判断をしているのかアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期の授業流れについて理解ができる	ガイダンス
2	組織について理解を深めることができる	組織とは何か。時代に共に変化してきた組織の形を学習する
3	同上	組織の活性化に必要な要素をを学習する
4	組織の新しい考え方について理解ができる	ウェルビーイングとは
5	同上	新しい組織（チーム）の形を学び体感してみる
6	心理的安全性の高い組織について理解ができる	心理的安全性の高い組織の特徴を学び、ストレスへの対処方法を学ぶ
7	チームワークについて理解ができる	チームワークに欠かすことができない協調性やコミュニケーションについて学ぶ
8	同上	ゲームを通して、チームワークを学ぶ
9	リーダーの特性を理解できる	起業家、政治家からリーダーシップ像を考えてみる
10	リーダーシップを理解できる	自分のリーダーシップはどこにあるのか考察してみる
11	リーダーに必要な資質を理解できる	協調力、判断力、傾聴力などリーダーシップに必要なスキルを磨くためには
12	学んだことをアウトプットができる	ワークショップ
13	同上	同上
14	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員は経営コンサルタントの実務経験を活かし、経営戦略・人事労務管理・リーダーシップ論などの経営基本知識をケーススタディを用いて指導を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	卒業研究		(NKT24G)
講義名 (コード)	卒業研究A		(NKT24GA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ここまでの学習の集大成を、自分自身で振り返り、自分だけでなく人にも伝えられるようにわかりやすい説明とプレゼンテーションを行うことができる
全体の内容と概要	今まで学習したことを振り返り、さらにそれについて知識を深めたり、PPTを使用しプレゼンテーション練習も行う。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	特になし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	今まで学習した内容を振り返り、語彙を確認することができる	今までに学習した国際問題など、経済や政治問題に頻出する語彙を確認する
2	マインドマップを作成できる	今まで学習したことをもとにマインドマップを作成する
3	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる①	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものをピックアップする
4	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる②	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものについてPPTを作成
5	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる③	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものについてPPTを作成
6	自分の考えを人に伝えることができる	クラス内発表
7	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる①	卒業発表にふさわしい発表テーマについて考える
8	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる②	テーマをもとにマインドマップを作成する
9	自分の言葉で表現することができる①	スピーチ原稿を作成する
10	自分の言葉で表現することができる②	スピーチ原稿をもとに話す練習をするPPTを作成
11	卒業発表を意識しスピーチすることができる①	パワーポイントを作成
12	卒業発表を意識しスピーチすることができる②	パワーポイントを作成
13	期末テスト	クラス内発表 FB
14	期末テスト	クラス内発表 FB
15	期末テスト	クラス内発表 FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスプレゼンテーションⅡ		(NKT24I)
講義名 (コード)	ビジネスプレゼンテーションⅡB		(NKT24IC)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	堀内 美穂	時間数	30
成績評価教員	堀内 美穂	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	パワーポイントを使いながら人前で自分の意見を発表することができる。見ている人がわかりやすいビジュアルツールを作成しプレゼンテーションを行う。様々な場面のビジネスシーンで役立てることができる。
全体の内容と概要	作成したPPTを使用し何度もプレゼンテーション練習を行う。PPTを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする。
授業時間外の学修	授業内だけでは発表準備が間に合わないため、家での練習も必要になる。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	プレゼンテーションとは何かがわかる	プレゼンテーションと何か。どんな場面でどのように使用するのか。例を見ながら正しいプレゼンテーションの方法を学ぶ。
2	プレゼンテーションをする前の準備の方法がわかる。	プレゼンテーション作成のステップ、注意する事などを学ぶ。PPTの使い方を学ぶ。
3	簡単なPPTを作成することができる。	写真を使った自己紹介PPTを作成する。
4	写真を使ったプレゼンができる。	PPTを使って自己紹介をする。
5	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンとは何かがわかる。	通信販売のプロモーションの方法とは何か。いくつかの動画を見て方法を見比べてみる。
6	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	身近な商品を使ってプロモーションを試みる。
7	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	PPTを使って顧客を獲得する新商品のプロモーションを考える。
8	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
9	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
10	グラフの作成ができる。	簡単なデータをもとに違う種類のグラフを作成する。
11	国際問題についての現状を理解することができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての現状を理解することができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についてPPTを使い発表を行うことができる。	作成したPPTを使い発表練習を行う。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 クラスメートからの評価をもらう。
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 クラスメートからの評価をもらう。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	経済学Ⅱ		(NGB24F)
講義名 (コード)	経済学ⅡD		(NGB24FD)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	高橋 亨	時間数	30
成績評価教員	高橋 亨	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	経済が日常生活や企業経営に及ぼす影響を事例及び実践ワークを通して学ぶことで、社会人としての常識となる経済学を修得する。
全体の内容と概要	「日常生活」「企業活動」「市場経済」「経済成長」「金融」「グローバル経済」の分野における経済理論、また現在の日本国内や海外の経済情勢を理解する。
授業時間外の学修	実践ワークを通じて経済活動を体験する
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で行うため、ヒアリングできる程度の日本語語学力が必要。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	お金と金融にまつわる経済学を理解することが出来る	・金融にまつわる経済学 〈貨幣の価値、金融、日本銀行、公定歩合〉
2	お金と金融にまつわる経済学を理解することが出来る	・金融にまつわる経済学 〈金融政策、信用不安、インフレ、デフレ〉
3	お金と金融にまつわる経済学を理解することが出来る	[実践ワーク] インフレ・デフレが経済に与える影響
4	お金と金融にまつわる経済学を理解することが出来る	・金融にまつわる経済学 〈バブル経済と崩壊、デフレ不況、アベノミクス〉
5	グローバルな経済の仕組みを理解することが出来る	・グローバルな経済 〈貿易、比較優位の原則、基軸通貨、国際収支〉
6	グローバルな経済の仕組みを理解することが出来る	・グローバルな経済 〈アメリカの貿易赤字、円高・円安、経済統合と通貨統合、TPP〉
7	グローバルな経済の仕組みを理解することが出来る	[実践ワーク] 円高と円安が経済に与える影響
8	グローバルな経済の仕組みを理解することが出来る	・グローバルな経済 〈WTO、経済地理学、フェアトレード〉
9	政治と経済の関係が理解できる	・政治と経済 〈政治的鋭気循環論、政策の遅れ、労働者派遣法、消費税〉
10	政治と経済の関係が理解できる	・政治と経済 〈年金、高齢者雇用安定法、政府の信頼性〉
11	行動経済学が理解できる	・行動経済学 〈ナッジ理論、上昇選好、フレーミング効果、ハロー効果、保有効果〉
12	企業、市場にまつわる経済学を理解することが出来る	企業にまつわる経済学、市場にまつわる経済学 おさらい
13	金融にまつわる経済学、グローバル経済を理解することが出来る	金融にまつわる経済学、グローバル経済 おさらい
14	期末テスト	・記述式テストの実施
15	まとめと解説	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「経済学見るだけノート」木暮太一著・宝島社
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	貿易商務論Ⅱ		(NGB24H)
講義名 (コード)	貿易商務論ⅡA		(NGB24HA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	海外との取引を行う会社で、輸出入を担当する為に必要な基本的な知識を身につける
全体の内容と概要	実際の輸出入取引を理解し、貿易実務検定資格受験レベルの知識を身につける
授業時間外の学修	特に貿易用語について、理解し使えるように復習をすること
履修上の注意事項等	授業では、グループ学習も行うので、積極的な参加が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	春学期授業の復習と秋学期授業の説明が理解できる	春学期に使った貿易用語を復習する。秋学期は、貿易実務、貿易英語、実務検定問題の勉強を毎回行う
2	貿易の流れが説明できる	貿易関係者と流れを図示する。色々な貿易取引を説明する。取引条件と必要な英単語を説明する。問題演習。貿易英文読解
3	信用状の実務が説明できる	信用状と関係者について復習。問題演習。貿易英文読解
4	貿易書類と手続きが説明できる	貿易の流れと必要書類を確認する。問題演習。
5	貿易法務が説明できる	貿易契約とインコタームズについて確認する。問題演習。
6	外国為替と代金決済が説明できる	外国為替レートの復習と関連事項の説明。問題演習。貿易英文読解
7	海上保険と貿易保険が説明できる	海上保険の内容を復習。問題演習、貿易英文読解
8	貿易クレーム対応が説明できる	貿易クレーム説明。問題演習。貿易英文読解
9	貿易と環境条件が説明できる	貿易に関連する国際条約の説明。問題演習。貿易英文読解
10	貿易経済知識が説明できる	世界の貿易に関する経済用語の説明。問題演習。貿易英文読解
11	通関知識が説明できる	通関用語の説明。問題演習。
12	貿易運送が説明できる	海上運送等の特殊用語の説明。問題演習、貿易英文読解
13	マーケティングが説明できる	貿易のマーケティングの復習。問題演習。貿易英文読解
14	テスト	総合テスト
15	フィードバック	講評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「貿易のしくみ」
参考文献・資料等	必要に応じて、コピー等を配布します。
備考	グループ学習が多いので積極的な参加が必要

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	世界情勢Ⅱ		(NGB24J)
講義名 (コード)	世界情勢ⅡD		(NGB24JD)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際的な理解度を高め、異文化に対する知識を習得し、国際感覚を身につけることを目指す
全体の内容と概要	世界の国々の歴史や現状をテキストに基づき学ぶとともに、世界的な課題提起「SDG s」の進捗状況などを、グループワーク等を活用して学ぶ
授業時間外の学修	様々な国の方との交流を通じ相互理解を深める
履修上の注意事項等	各授業の最後に確認テストを実施する予定

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上で期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション 学習意図が理解できる	本授業の意図と習得する知識・現段階における知識レベルの把握
2	各国の位置関係が理解できる	・世界地図を参考に世界の国々の位置関係やエリアを学ぶ 【セルフワーク】 出身国の位置関係と他国との文化交流を説明する
3	国際機関・団体を理解できる	・国際的な機関や団体の種類と業務内容について学ぶ 【グループワーク】 設立背景や主な活動などの調査発表
4	世界の地理を理解できる	・各大陸の呼称や構成国について学ぶ 【セルフワーク】 各大陸の成り立ちや地形の変化を調査する
5	エリアの特徴を理解できる	・ヨーロッパ、アジア、アフリカの特徴について学ぶ 【グループワーク】 各エリアの構成国や文化について調査する
6	エリアの特徴を理解できる	・南北アメリカ、オセアニア、南極の特徴について学ぶ 【セルフワーク】 各エリアの構成国や文化について調査する
7	世界の現状を理解できる①	・世界の気候や天気など生活にかかわる特徴について学ぶ 【グループワーク】 人口や言語の違いについて調査する
8	世界の現状を理解できる②	・各国の平均所得や生活レベルについて学ぶ 【セルフワーク】 主要産業や働く上でのルールなどについて調査する
9	世界の現状を理解できる③	・世界の貿易の現状と輸出入の実情について学ぶ 【グループワーク】 様々な資源やエネルギーの現状について調査する
10	世界の現状を理解できる④	・世界の産業（農業・商業・工業）の特徴について学ぶ 【セルフワーク】 年間生産量や特産品について調査する
11	世界の文化を理解できる①	・スポーツの国技性や多様な食文化について学ぶ 【グループワーク】 オリンピック競技の変遷について調査する
12	世界の文化を理解できる②	・世界遺産の種類や選定基準、認定施設等について学ぶ 【セルフワーク】 世界遺産に認定されるメリットとデメリット
13	世界の文化を理解できる③	・世界の祭りや風習について学ぶ 【グループワーク】 お祭りの起源や類似性について調査する
14	後期末テスト	後期授業で学んだ内容の確認テスト（筆記・実技）
15	フィードバック・まとめ	テスト結果のフィードバックと回答解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「地図でよくわかる世界の国大百科」「こどもSDGs達成レポート」
参考文献・資料等	なし
備考	理解を深めるための独自資料を、内容に応じ用意

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスプレゼンテーションⅡ		(NKT24H)
講義名 (コード)	ビジネスプレゼンテーションⅡC		(NKT24HC)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネス学科コース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	プレゼンテーションの目的を理解して人前で自分の意見を発表することができる。聞き手は発表内容を理解して、感想や自分の意見を述べるができる。
全体の内容と概要	作成したパワーポイントを使用して何度もプレゼンテーションの練習を行う。また、正しい日本語を使って分かりやすい説明ができているか確認し合う。
授業時間外の学修	発表練習を何度も行う。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	春学期に学んだことを再確認する	春学期の振り返り（プレゼンテーションの構成、PPTの使い方、発表の仕方）
2	聞く人に合わせた話し方ができる	相手の興味や関心を考えて話す方法を学ぶ。
3	人前で簡単なプレゼンテーションができるようになる	簡単なテーマに沿ったプレゼンテーションを作成する。
4	人前でプレゼンテーションができるようになる	簡単なテーマに沿ったプレゼンテーションをクラスの中で発表する。
5	わかりやすいプレゼンテーションについて理解できる	発表や、クラスメイトの発表を聞いてプレゼンテーションの作り方や、発表の仕方 で、より良くするためにできることを話し合う。
6	商品プレゼンテーションの導入を学び理解できる	商品プレゼンテーションの流れを学び、自分が紹介する商品を決める。
7	各々決めた商品のプレゼンテーションをPPTで作成することができる。	商品プレゼンテーション用のスライドの作成やスピーチ練習をする。
8	商品プレゼンテーションを発表し聞き手は意見を述べられる	商品プレゼンテーションを発表し、フィードバックを受ける。
9	商品プレゼンテーションを発表し聞き手は意見を述べられる	商品プレゼンテーションを発表し、フィードバックを受ける。
10	国際問題を理解し、自分の意見を抽出し原因を考えることができる	自分の興味ある現在起きている国際問題について調べ、現状・問題の原因について まとめることができる。
11	国際問題を理解し問題、原因、解決策をまとめPPTを作成できる	問題についてデータを検索しグラフや表を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自 分の意見を交えた解決法を考える。
12	国際問題を理解し自分の意見を発表することができる	国際問題についてクラスの中で発表する。
13	自分の言葉で表現することができる	時間を計りながら発表練習をする。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	会計財務Ⅱ		(NGB24L)
講義名 (コード)	会計財務ⅡA		(NGB24LA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	前期に学習した簿記の基礎知識をふまえて、日商簿記初級・3級検定受験を目標に企業の取引のしくみ、記帳のしくみを学習していきます
全体の内容と概要	テキストに沿って1つ1つの会計処理方法を覚え、模擬問題を練習し検定対策をしていきます
授業時間外の学修	前期の内容のほかに新しい勘定科目や書式、計算問題が出てきます しっかり復習して覚えていきましょう
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも受験が出来ますので受験日を考えて学習してってください

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期学習内容を復習する	前期内容復習・本試験シミュレーションより抜粋問題
2	税金の種類を理解する	税金の種類（固定資産税・印紙税・所得税・消費税）
3	税金のしくみを理解する	税金の仕訳・仮受、仮払消費税の処理
4	収益と費用の勘定科目・仕訳を確認する	収益と費用 勘定科目と仕訳の復習・練習問題
5	試算表の作成を確認する	試算表の作成復習・練習問題
6	3伝票制について理解する	3伝票制・伝票の集計と管理・練習問題
7	簿記初級範囲の問題を理解する	総合練習問題1・2
8	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第1回
9	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第2回
10	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第3回
11	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第1回練習
12	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第2回練習
13	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第3回練習
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生のための簿記初級ワークブック
参考文献・資料等	他テキスト、問題集よりの抜粋プリント 簿記初級サンプル問題 操作体験版なども使いパソコンで操作する試験に慣れていきます
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅣ		(NKT24F)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅣA		(NKT24FA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター (株)、東京精電 (株) 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分のレベルに合わせた資格の取得
全体の内容と概要	日商PC検定 (BASIC) またはMOS検定のうち自分の受験科目を選択し検定対策をする
授業時間外の学修	資格試験受験に向けて、プログラムや模擬問題でくり返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画				
回	到達目標	授業内容		
1	受験科目を決定し目標を決める MOS検定の問題を確認し理解する	MOS プログラムの操作確認 (Word・Excel・PowerPoint 数問ずつ)		
2	受験科目を決定し目標を決める 日商3級の問題を確認し理解する	日商PC検定3級プログラムの操作確認 (Word・Excel・PowerPoint 数問ずつ)		
3	受験する科目の問題を学習して 解答できるようになる	選択した受験する科目のプログラムを練習 MOS・日商PC 3級・日商PC Basic (Word・Excel・PowerPoint より)		
4	検定受験対策 (科目ごと学習して 解答できるようになる) 日商PC Word Basic 基本的な操作を取得 指示に従った正確なデータ処理 MOS (Word・PowerPoint) 高度な機能を活用し さまざまな目的や状況に応じて 利用環境をカスタマイズできる	Basic (7°プログラム練習) 模擬1 ビジネス文書作成の基本	MOS Word ・文書の管理 ・文字・段落・セクションの 挿入と書式設定	MOS PowerPoint ・プレゼンテーションの 管理 ・スライドの管理
5		Basic (7°プログラム練習) 模擬2 表を活用した文書作成	・表やリストの管理 ・参考資料の作成と管理 ・グラフィック要素の 挿入と書式設定	・テキスト・図形 画像の挿入と書式設定 ・表・グラフ・SmartArt 3Dモデル・メディアの 挿入
6		Basic (7°プログラム練習) 模擬3 図形を活用した文書作成	・文書の共同作業の管理 模擬試験プログラムを 活用して学習	・画面切り替えや アニメーションの適用
7		Basic 補足問題 テキスト問題で操作確認		模擬試験プログラムを 活用して学習
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	資格試験 模擬試験プログラム練習		
9		BASIC 商工会議所サンプルプログラム・FOM出版問題集		
10		MOS FOM出版		
11		Word 365 Expert 対策テキスト&問題集		
12		Excel 365 Expert 対策テキスト&問題集		
13		PowerPoint 365 対策テキスト&問題集 (受験できる学生は検定受験)		
14	まとめと解説	期末テスト		
15	まとめと解説	テストF B		

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	MOS 対策テキスト&問題集 Basic 日商PC検定試験公式テキスト&問題集 (貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント 資格試験対策として日商PC検定・MOSの模擬試験プログラムを利用
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、 Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス資格対策Ⅱ		(NGB240)
講義名 (コード)	ビジネス資格対策ⅡA		(NGB240A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	榊原 倫代	時間数	30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	サービス業で必要なおもてなしの力を身につけ、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	お客様の不満そうな様子を察して声をかけ、話を聞きだすことができる	<第6課> 傾聴について学び、お客様の話を聞く姿勢を実践する。
2	お客様のクレームを傾聴し、丁寧に謝ることができる	グッドマンの法則について学び、クレーム対応のロールプレイを行う。
3	お客様の要望に応えられなくても代案を立て、お客様に理解してもらうことができる	<第6課> の復習(まとめ問題) <第7課> 実際の場面を想像して、「代案」を考える練習をする。
4	お客様のあいまいな要望に対して確認し、いくつか提案することができる	CS、CDについて学び、 お客様に満足していただけるような「提案」を考える。
5	お客様の要望に応えられない時、誠実に断り、代案を立て応対することができる	<第7課> の復習(まとめ問題) <第8課> お客様の要望に応えられないときの応対方法を考え練習する。
6	お客様のクレームに対して誠実に謝り、迅速な対応ができる	お客様への謝罪の方法について学び、実際の場面を想像して ロールプレイを行う。
7	席次を理解することができる	席次について学び、案内の方法を考える。 <第8課> の復習(まとめ問題)
8	後期で学習したことを確認し、実践できる	第6課～第8課の復習をし、テストに向けて練習する。
9	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト①
10	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト②
11	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト③ / フィードバック
12	1年間学習したことを思い出し、サービス接客検定の問題を解くことができる	サービス接客検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
13	1年間学習したことを思い出し、サービス接客検定の問題を解くことができる	サービス接客検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
14	1年間学習したことを思い出し、サービス接客検定の問題を解くことができる	サービス接客検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
15	1年間のまとめ	この授業を受けてわかるようになったこと、できるようになったことを振り返り、今後どのように活かしていくか考える。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	おもてなしの日本語
参考文献・資料等	マナー＆プロトコルの基礎知識 サービス接客検定試験合格テキスト&問題集
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	検定対策Ⅳ		(NGB24Q)
講義名 (コード)	検定対策ⅣC		(NGB24QC)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	1 学年時、学習したWordの機能の活用を学習し資格を取得する
全体の内容と概要	日商PC検定BASICレベル受験対策を中心に学習していきます
授業時間外の学修	資格試験を受験する場合は、授業内容のほかにプログラムなどで繰り返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください 授業はBASICレベルを中心ですが3級受験希望者には3級の対策をします

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ビジネス文書の基礎知識を理解	ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介・自分の受験するレベルを決める
2	ビジネス文書作成の基本を理解	作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存
3	表を活用したビジネス文書が作成できるようになる	表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定
4	図形を活用した文書作成ができるようになる	図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更
5	あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける	模擬試験 問題1 ショールーム開設のご案内・避難訓練実施のお知らせ
6	表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解	模擬試験 問題2 社内運動会開催のお知らせ・ワイン試飲会開催のご案内
7	オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる	模擬試験 問題3 通信教育制度のご案内・新商品キャンペーンについて
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 (FOM出版問題集使用) 受験できる学生は随時検定受験 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	模擬試験プログラム 模擬1 配置の設定・文字書式の変更, 設定・定型文の入力・段落番号の設定 ・保存, 表の配置設定・図形の装飾
9		模擬試験プログラム 模擬2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存 表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定
10		
11		模擬試験プログラム 模擬3 配置の設定・文字書式の変更, 設定・段落番号の設定・保存 ・インデント設定, 表の編集・図形の装飾, 配置, 文字の入力
12		
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商 P C 検定BASIC公式テキスト・問題集 文書作成 (貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	資格試験対策として問題集・模擬試験プログラムを利用

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅣ		(NKT24F)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅣC		(NKT24FC)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	前期で学習したExcelの基本操作をさらに深め、実務で活用できる機能を習得し資格取得を目指します
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 検定試験を目標に、操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	資格試験受験に向けて、プログラムや模擬問題でくり返し練習してください
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも学校で受験できます 就職活動に合わせて、資格を取得する計画を立てましょう

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	関数（オートSUMボタン）の操作ができる	オートSUMボタンの関数（SUM・AVERAGE・COUNT・MAX・MIN）学習
2	練習問題により活用方法を理解する	COUNTA関数の学習・ここまでの関数の練習問題
3	RANK.EQ関数で順位づけができる	順位づけ（RANK.EQ関数） Fxボタンよりの関数の挿入・検索の仕方 相対参照と絶対参照のちがいと切り替え方法
4	ROUND・UP・DOWN関数で端数処理の意味を理解できる	ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数のちがいと桁数の設定
5	練習問題により活用方法を理解する	RANK、ROUND関数を含めた練習問題
6	条件判定と比較演算子の意味を理解できる	IF関数① IF関数を使った条件判定の入力の仕方、比較演算子の意味と使い方
7	関数のネスト方法を理解できる	IF関数② 3つ以上の条件判定、関数のネストの入力方法
8	VLOOKUP関数を活用した効率的な処理方法を理解できる	VLOOKUP関数① VLOOKUP関数の構造と使用方法
9	表検索入力の方法を理解できる	VLOOKUP関数② VLOOKUP関数とHLOOKUP関数のちがい
10	並べ替えとフィルターデータの検索と抽出を理解できる	並べ替えの設定方法・フィルターの設定と抽出
11	復習（学習した機能を活用して総合問題が解けるようになる）	テスト前練習問題（関数復習）
12	復習（学習した機能を活用して総合問題が解けるようになる）	テスト前練習問題（データベース復習）
13	復習（学習した機能を活用して総合問題が解けるようになる）	テスト前練習問題（総合問題）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターWord&Excel2021
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	レベルに応じた資格試験の練習問題・プログラム

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス英語Ⅳ		(NKT24B)
講義名 (コード)	ビジネス英語ⅣB		(NKT24BB)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、スピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	【海外出張】ホテルでのやり取りができるようになる	ホテルでのやり取りの仕方を学び練習する。
2	【海外出張】レストランで注文ができるようになる	レストランでの注文の仕方を学び練習する。
3	【海外出張】交通機関の利用・食事の買い出し等ができるようになる	交通機関の利用や食事の買い出しなどを練習する。
4	1～3回目【海外出張】の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	【打ち合わせ】商談を行えるようになる	商談の仕方を学びペアで練習する。
6	【打ち合わせ】お客様の予約を取れるようになる	お客様の予約の取り方を学びペアで練習する。
7	同僚とスモールトークすることができるようになる	同僚とスモールトークできるように練習する。
8	5～7回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	苦情を言うことができ、対処することができるようになる	苦情の伝え方と対処方法を学び練習する。
10	面接の対応ができるようになる	面接対応の仕方を練習する。
11	仕事を依頼し、支持することができるようになる	仕事を依頼し、指示できるようになる練習をする
12	9～11回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
13	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語、Business as Usual
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅳ		(NKT24D)
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅣB		(NKT24DB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	TOEIC600点を旨す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を知り、基礎を復習しながら確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文などの音読練習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	リーディングパートの模試問題を解く	リーディングパートの模試問題を解く。
2	Part5の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part5の復習。
3	Part6の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part6の復習。
4	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
5	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
6	リスニングパートの模試問題を解く	模試問題Part1の復習。
7	Part1の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part2の復習。
8	Part2の解答と解説が理解できるようになる	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える。
9	Part3の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3の復習。
10	Part3+4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3+4の復習。
11	Part4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part4の復習。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	世界一分かりやすいTOEIC 総合模試600点突破レベル、新装版TOEIC L&R TEST 出る単特急金の1000問
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス翻訳Ⅱ		(NKT240)
講義名 (コード)	ビジネス翻訳ⅡA		(NKT240A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現や語彙を習得し、ビジネスメールなどの翻訳ができるようになる。
全体の内容と概要	ビジネス英語特有表現を学び、実際使っているメールなどを翻訳する。
授業時間外の学修	ビジネス特有の表現・語彙の復習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Eメールの書き方・定型表現を理解できるようになる	Eメールの書き方・定型表現を学ぶ。
2	「品物がとどかない」クレームメールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
3	「品物が不足している」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
4	「品物が破損・不良品」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
5	「出荷の遅れを謝罪する」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
6	「品違いを謝罪する」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
7	「カタログの請求」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
8	「返事の催促」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
9	「配達の恐れへのお詫び」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
10	「支払いの催促」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
11	「添付ファイルの送付」メールを翻訳できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	肘井学のゼロから英文法が面白いほどわかる本
参考文献・資料等	入門ビジネス英語、書けるEメール・ライティング、英文ビジネスEメール文例集、Go Global
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅣ		(NKT24K)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅣ A		(NKT24KA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。また、日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	実践問題が理解できる1 2 いろいろなタイプの話の聞こう2	読解：統合理解 例題2 6 聴解：指示を聞こう
2	実践問題が理解できる1 3 いろいろなタイプの話の聞こう3	読解：統合理解 練習6 0 聴解：説明を聞こう
3	実践問題が理解できる1 4 いろいろなタイプの話の聞こう4	読解：統合理解 練習6 1 聴解：テーマやいいたいことを聞こう
4	実践問題が理解できる1 5 いろいろなタイプの話の聞こう5	読解：統合理解 練習6 2 聴解：まとめ問題
5	実践問題が理解できる1 6 いろいろな語彙や表現を覚えよう1	読解：統合理解 練習6 3 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう①
6	実践問題が理解できる1 7 いろいろな語彙や表現を覚えよう2	読解：情報検索 例題2 7 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
7	実践問題が理解できる1 8 いろいろな語彙や表現を覚えよう3	読解：情報検索 例題2 8 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
8	実践問題が理解できる1 9 いろいろな語彙や表現を覚えよう4	読解：情報検索 練習6 4 聴解：言い換えの言葉を覚えよう
9	実践問題が理解できる2 0 いろいろな語彙や表現を覚えよう5	読解：情報検索 練習6 5 聴解：よく聞く表現を覚えよう
10	実践問題が理解できる2 1 いろいろな語彙や表現を覚えよう6	読解：情報検索 練習6 6 聴解：まとめ問題
11	実践問題が理解できる2 2 まとめ問題をやってみよう1	読解：情報検索 練習6 7 聴解：総まとめ問題1
12	実践問題が理解できる2 3 まとめ問題をやってみよう2	読解：情報検索 練習6 8 聴解：総まとめ問題2
13	実践問題が理解できる2 4 まとめ問題をやってみよう3	読解：情報検索 練習6 9 聴解：総まとめ問題3
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N1 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ		(NKT24M)
講義名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ A		(NKT24MA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	古風な表現を使った小説や論説文、やや専門的な説明を理解できるようになる
全体の内容と概要	日常生活はもちろん交渉をしたり様々なやりとりができるような文法と語彙を学ぶ
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる2	文法：～かと思いきや ～んがため ～のごとく 文字語彙：文脈規定15回
2	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる3	文法：～にして ～だに ～～だにしなかった 文字語彙：文脈規定16回
3	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる4	文法：～かねる ～を限りに CHECK 文字語彙：17回
4	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる5	文法：まとめの問題 文字語彙：文脈規定17回
5	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できる1	文法：～からいる ～にかかわる ～にあって 文字語彙：文脈規定18回
6	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できる2	文法：～ようによって（は） まとめの問題 文字語彙：文脈規定19回
7	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる1	文法：～べからず ～のみ ～がゆえ 文字語彙：文脈規定20回
8	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる2	文法：～と相まって ～にかたかない 文字語彙：言い換え類義1回
9	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる2	文法：～としてあるまじき ～ずにはすまない 文字語彙：言い換え類義2回
10	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる3	文法：～でなくてなんだろう ～極まりない 文字語彙：言い換え類義3回
11	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる4	文法：～を禁じえない ～にたる 文字語彙：言い換え類義4回
12	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる5	文法：～べくもない ～なくして 文字語彙：言い換え類義5回
13	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる6	文法：CHECK 文字語彙：言い換え類義6回
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ドリル&ドリルN1文字語彙 TRYN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	キャリアデザインⅣ		(NKT24Q)
講義名 (コード)	キャリアデザインⅣD		(NKT24QD)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	若林 繁実	時間数	30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】講師紹介後期の内容について説明、心構え 【演習】進路調査 Cam-J 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】インターンシップについての復習 【演習】インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる (1)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる (2)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる (3)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる(1)	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる(2)	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる(1)	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる(2)	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(1)	【研修】研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(2)	【入社前研修】入社時書類、労働条件(給料、時間、休日、勤務地) 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。(1)	【日本の企業】1日、1か月、1年間の仕事の流れ 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【テスト】回収
15	まとめと対策	【テスト返却】フィードバックと解説 【振り返り】講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	キャリアデザインⅣ		(NKT24Q)
講義名 (コード)	キャリアデザインⅣA		(NKT24QA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース/グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】講師紹介後期の内容について説明、心構え 【演習】進路調査 Cam-J 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】インターンシップについての復習 【演習】インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる (1)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる (2)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる (3)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる(1)	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる(2)	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる(1)	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる(2)	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(1)	【研修】研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(2)	【入社前研修】入社時書類、労働条件(給料、時間、休日、勤務地) 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。(1)	【日本の企業】1日、1か月、1年間の仕事の流れ 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【テスト】回収
15	まとめと対策	【テスト返却】フィードバックと解説 【振り返り】講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Webマーケティング実践IV		(NKT24T)
講義名 (コード)	Webマーケティング実践IVA		(NKT24TA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数	30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	デザインツール「CANVA」を使用し、動画作成の基本を学び、視覚的に魅力的で効果的なショート動画を作成するスキルを身につける。
全体の内容と概要	CANVAを使用して、アニメーション・フォトムービー・動画の基本的な制作方法を学び、企画、撮影、編集したセルフプロデュースショート動画の制作に取り組む。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	基本操作の復習	SNS投稿画像とキャプション制作
2	アニメーション効果の習得	フェードイン、スライドイン、パン効果、タンブル、ストンプなどの効果を使用したショート動画の制作
3	アニメーション効果の習得	フェードイン、スライドイン、パン効果、タンブル、ストンプなどの効果を使用したショート動画の制作
4	ショート動画の作成	ニーズに合わせ、拡散効果を付加したSNS投稿用ショート動画の制作
5	ショート動画の作成	ニーズに合わせ、拡散効果を付加したSNS投稿用ショート動画の制作
6	セルフプロデュース ショート動画①素材撮影	街や観光名所を撮影する（動画・静止画）
7	セルフプロデュース ショート動画②企画	撮影した素材に合わせて動画のストーリーを企画、絵コンテ、キャプションを考える
8	セルフプロデュース ショート動画③動画制作	企画に沿って動画を制作
9	セルフプロデュース ショート動画④BGM・効果音	動画に合わせて音を挿入する
10	セルフプロデュース ショート動画⑤サムネイル画像	サムネイルが与える動画への効果を学び、動画を完成させる
11	セルフプロデュース ショート動画⑥発表	セルフプロデュースショート動画の発表と評価・感想
12	セルフプロデュース ショート動画⑥発表	セルフプロデュースショート動画の発表と評価・感想
13	期末テスト	成果物制作
14	期末テスト	成果物制作・提出
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Canva 基本&デザインTIPS！ 無限に役立つ使いこなしワザ152 技術評論社
参考文献・資料等	①世界一やさしいCanva 無料で使えるデザイン作成ツールガイド インプレス ②ちなみにそれ、Canvaでできます！ インプレス
備考	